

ミニフルセット 取り扱い説明書

(TYPE / MFST-G3-2)
(TYPE / MFST-G3VD-2)



写真は移動機での組み立て参考図です。
お好みの状態で各部をセットして頂いても結構です。

株式会社 サン京都

目次

○ 基本機	組み立て方法	P 3
○ ガン掛け	組み立て方法 ①	P 3
○ ドライヤースタンド	組み立て方法	P 4
○ ガン掛け	組み立て方法 ②	P 5
○ 薬品棚	設置方法	P 5
○ スチームガン掛け	設置方法	P 6
○ ビートガン	設置方法	P 7
○ ”	接続方法(非連動型)	P 8
○ ”	接続方法(連動型)	P 9
○ 移動メッシュ型吸引台	取付方法	P 11
○ 吸引機本体	使用方法	P 12
○ ”	カーボンブラシ 交換図	P 16
○ ”	故障かなと思う前に(パキム編)	P 17
○ シルクビートガン	説明書	P 18
○ ”	故障かなと思う前に(シルクビートガン編)	P 22
○ パワースチームガン	説明書	P 24
○ ”	故障かなと思う前に(パワースチームガン編)	P 27
○ ハンディースチームガン	説明書	P 28
○ ”	故障かなと思う前に(ハンディースチームガン編)	P 29
○ 黄変抜き用薬品 使用方法		P 30

【仕様】

吸引機本体	1050W/100V
ドライヤースタンド	1200W/100V (HIの場合)
シルクビートガン	40W/100~220V × 2台
ハンディースチームガン	40W/100V
パワースチームガン	60~500W(起動時)/100V

【設置必要寸法】

●【机400×600】	幅770mm	×	奥行480mm	×	高さ1770mm
●【机400×800】	幅970mm	×	奥行480mm	×	高さ1770mm
●【机600×800】	幅970mm	×	奥行680mm	×	高さ1770mm
●【机600×1200】	幅1370mm	×	奥行680mm	×	高さ1770mm

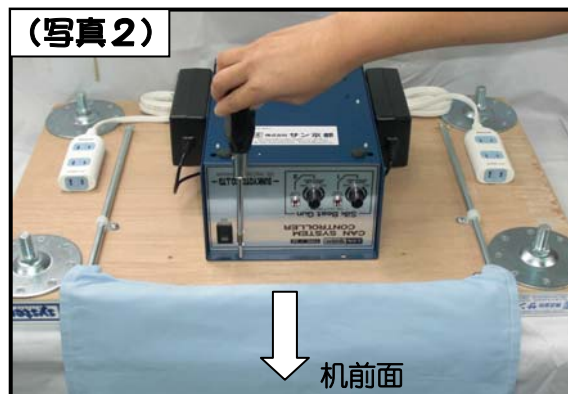
【付属品】

- 排気ホース7m (内径38φ、外径45φ)
- 水用ポリタンク(4L) × 1
- 各種薬品 (No.0一般油性) (No.1特殊油性) (No.2水性ワックス) (No.3水性ワニス) (No.104-A・B・C黄変抜き用)
- 六角レンチ
- インシュロック

【その他必要品】

- エアホース … 内径4mm×外径6mmウレタンチューブ使用(別売)

基本机 組み立て方法



— 標準サイズの場合 —

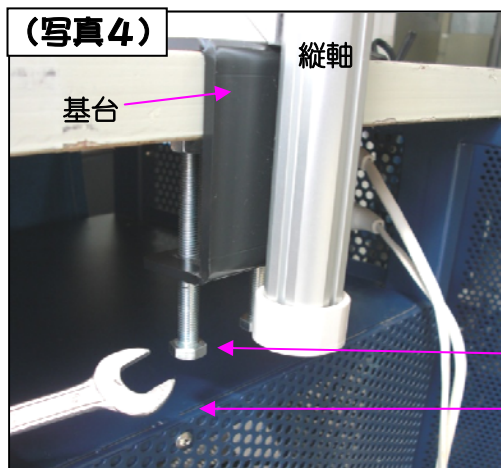
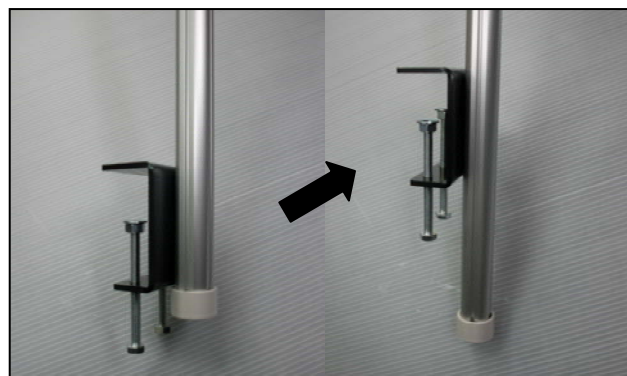
- ① 初めに足取付ネジを機の裏面取付金具に上下の向きに注意して、17mmのレンチ等で確実に締め付けて下さい。(短い方が裏面取付金具) (写真1参照)
 - ② その後に足を取付けます。
- ※ 足の下に付いているアジャスターで高さ調整が出来ます。
- ※ オプションで足の下にキャスターを取付ける事が出来ます。

— 標準サイズ以外の場合 —

(机裏にガンコントロールBOXを取り付けると邪魔にならなくて済みます。)

- ① 机裏の任意の場所に、コントロールBOXの前面が机が手前側に向くように付属のビスで取り付けます。(写真2参照)

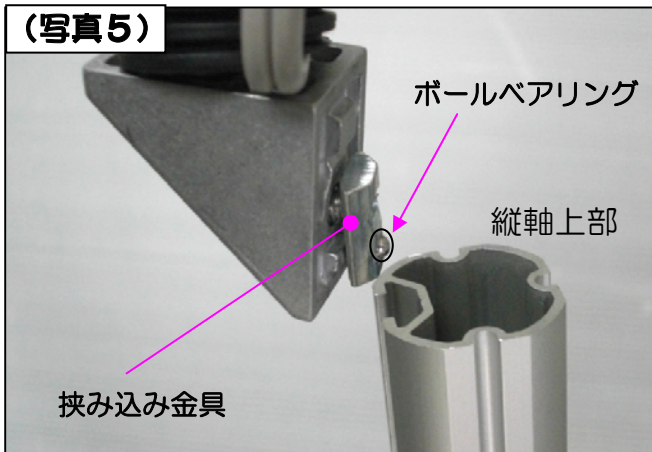
ガン掛け 組み立て方法 ①



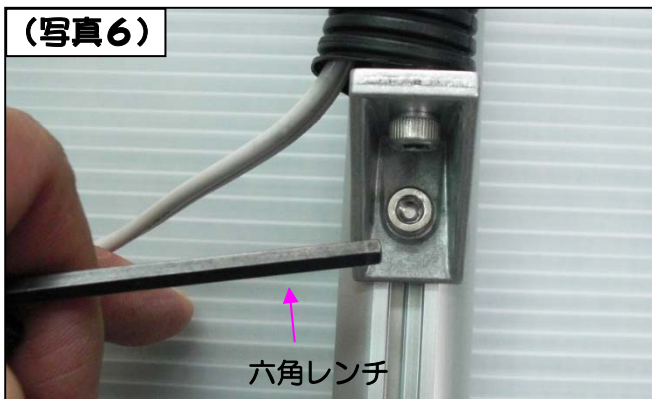
- ① 基台に縦軸を取り付けてある3本のネジを緩める事により、縦軸が上下に移動でき、ガン掛け全体の高さを任意に設定できます。(写真3)
(基台を机に取り付ける前に調整して下さい)
- ② 基台を機の任意の場所に 13mm スパナ等を使用して、固定ネジで確実に取付けて下さい。(写真4)

ドライヤースタンド 組み立て方法

(写真5)



(写真6)



— ガン掛け上部の横軸取付け前 —

- ① 縦軸の上方より、ドライヤースタンドの取り付け土台と挟み込み金具との間に縦軸の溝を滑り込ませるようにして差し込みます。(写真5)
- ② 任意の高さまで下ろしたら、付属の六角レンチにてしっかり固定します。(写真6)

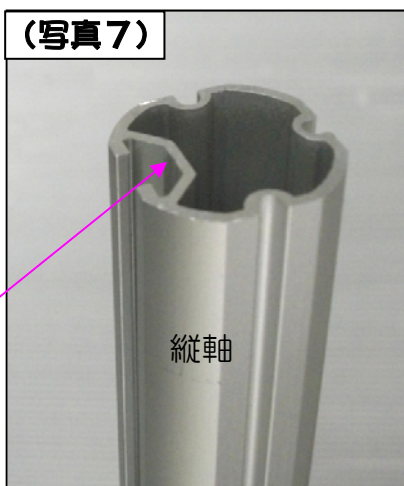
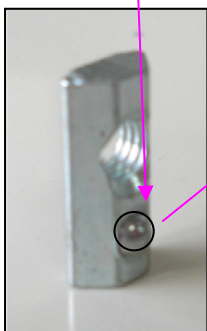
- ドライヤースタンドのコードをフットスイッチのコネクターに一度接続してから、机裏の100Vのコンセントに差し込んで下さい。
(バキューム本体と一緒にコンセントにならないように注意してください。)
- ドライヤーのスイッチはONの状態にしておきフットスイッチでON/OFFして御使用下さい。
(通常はHOT/HIの状態が、乾燥が早く使い易いと思われます。)

— ガン掛け上部の横軸取付け後 —

- ① 写真5のドライヤースタンドの取り付け土台に付いている挟み込み金具(写真5)を取り外し、ボールベアリングが付いている方を縦軸の溝の中側に入るように差し込みます。(写真7)
- ② この時、挟み込み金具落とさないように溝の下方に指を入れて金具が落ちないようにします。(写真8)
- ③ 細い棒のようなもので金具を真っ直ぐに入れ直します。(ボールベアリングが効いてますので金具は落ちません。)
- ④ 六角レンチを使用して金具にドライヤースタンドの取り付け土台をしっかり固定します。(写真6)

ボールベアリングが溝の奥に入るように挿入する。

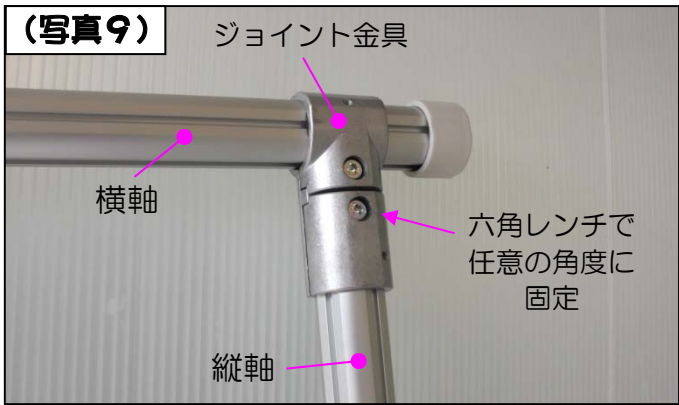
(写真7)



(写真8)



ガン掛け 組み立て方法 ②

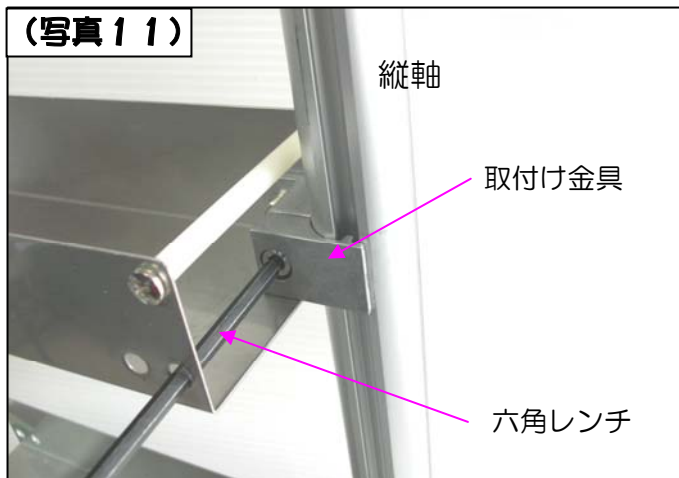


① 横軸に取り付けてあるジョイント金具を縦軸に差込み、六角レンチを使用し任意の角度で固定します。(写真9)

② 横軸に取り付けてあるガン掛けフックは、用途に合わせて左右に移動できます。(写真10)

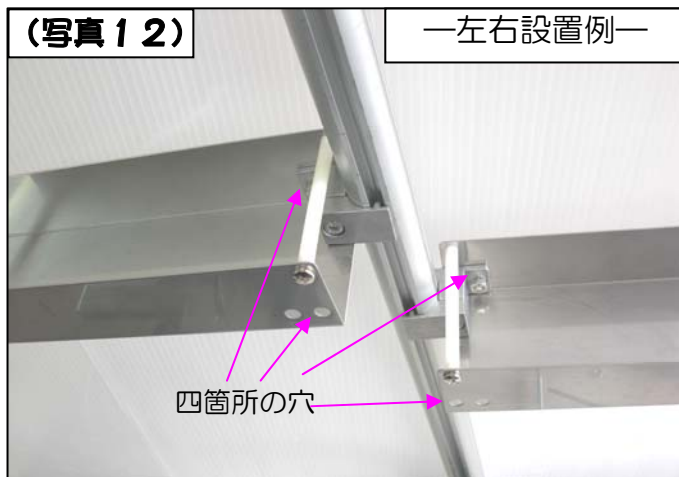


薬品棚 設置方法



① 取付け金具を縦軸の任意の位置に挟み込み、六角レンチを使用して薬品棚をしっかりと固定します。(写真11)

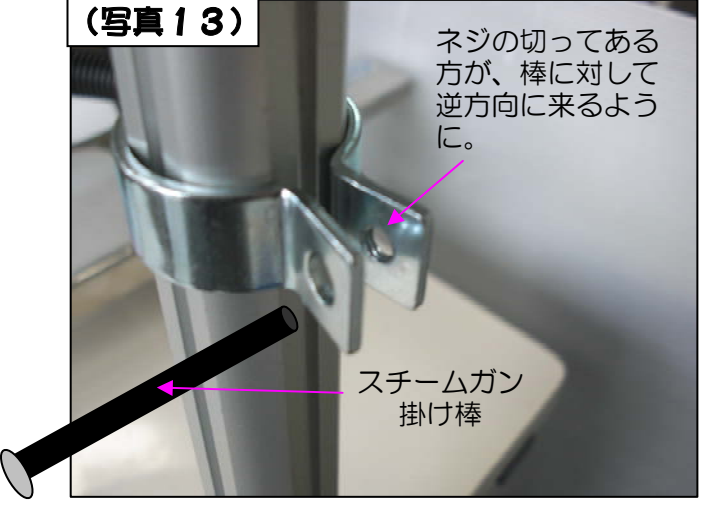
薬品棚は、棚の四箇所(穴)を利用して前後左右お好きな状態に取り付ける事が出来ます。
(写真12参照)



スチームガン掛け 設置方法

(写真13)

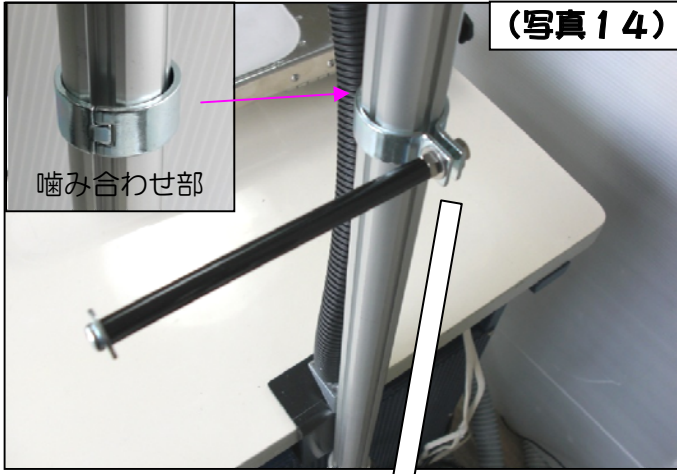
ネジの切っである方が、棒に対して逆方向に来るように。



スチームガン
掛け棒

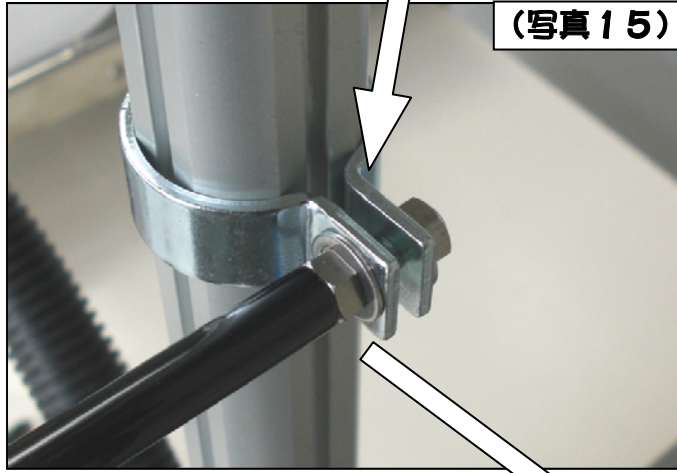
- ① 縦軸の任意の位置に任意の方向へスチームガン掛けを取り付けます。(写真13~15)
(写真は向かって右側に取り付けた例です)
- ② 写真13~15の様に網棚に掛けて使用するか、または付属のステン板を机の任意の場所に張りつけて、スチームガンの底のマグネットを立ててご使用下さい。
- ③ スイッチ部を付属のインシュロックで、シルクガン掛けの縦軸に固定して下さい。(写真16)
(スイッチ部のパイロットランプが確認できて消し忘れを防げます。)

(写真14)



噛み合わせ部

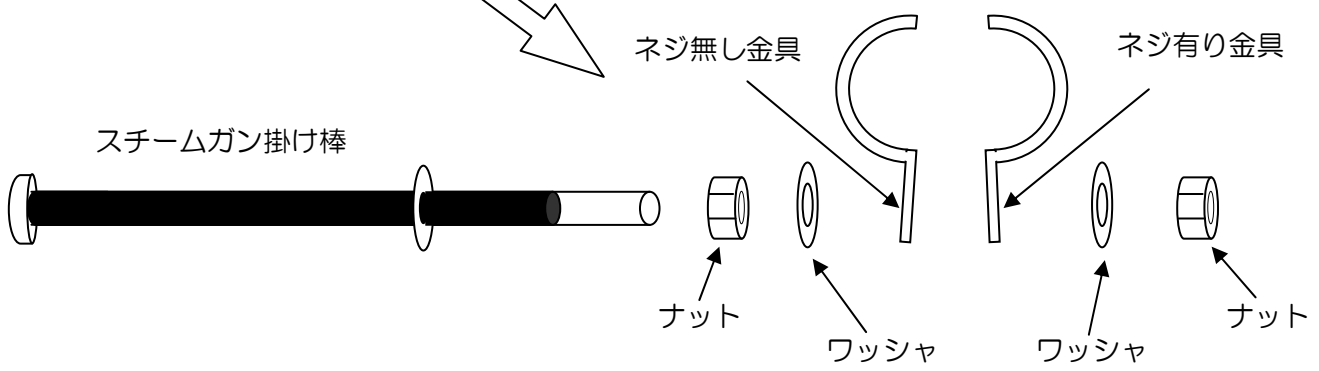
(写真15)



(写真16)



スイッチ



ビートガン 設置方法

(写真17)



- ① ガン掛けのフックにバランスを吊るしてからシルクビートガンを取付けて下さい。
- ② ビートガンのエア付&エア無しを作業のやりやすい位置のバランスにセットして頂き、**メッシュ台迄とどくか確認しながら**、ガン掛けの軸にコードとホースを付属のインシュロックで固定して下さい。(写真17)

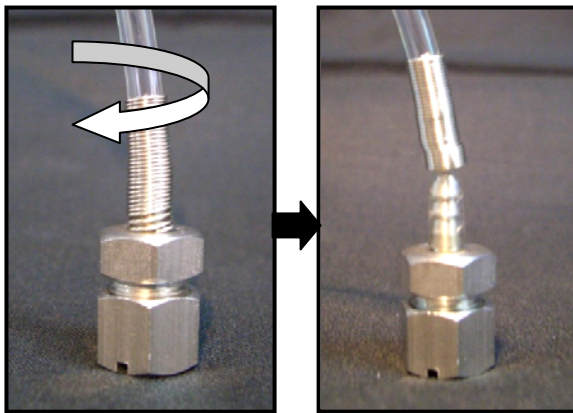
注意

インシュロックを強く締めすぎると、ホースに圧がかかり、液が出なくなる事が有りますのでご注意ください。

- ③ 付属のリングを使用して、コード・ホースをバランスのワイヤーに沿わずように止めて頂くと作業時に邪魔にならずに便利です。
- ④ 各吸引用ホースは、付属の水用タンク及び一斗缶に直接入れて下さい。

{ホース先端ストレナー}

シルクガンのホースを任意のタンク又は一斗缶の穴空きキャップに通される場合は、(写真6)を参考にストレナーとホースの接続部のスプリングを時計回転させながら引き抜いた後、ホースを引き抜いて下さい。ホースに取付ける場合は逆の手順で行って下さい。



(写真18)

(写真19)



右に回すと
引上げ力が
強くなります



引きながら
左に回すと
引上げ力が
弱くなります



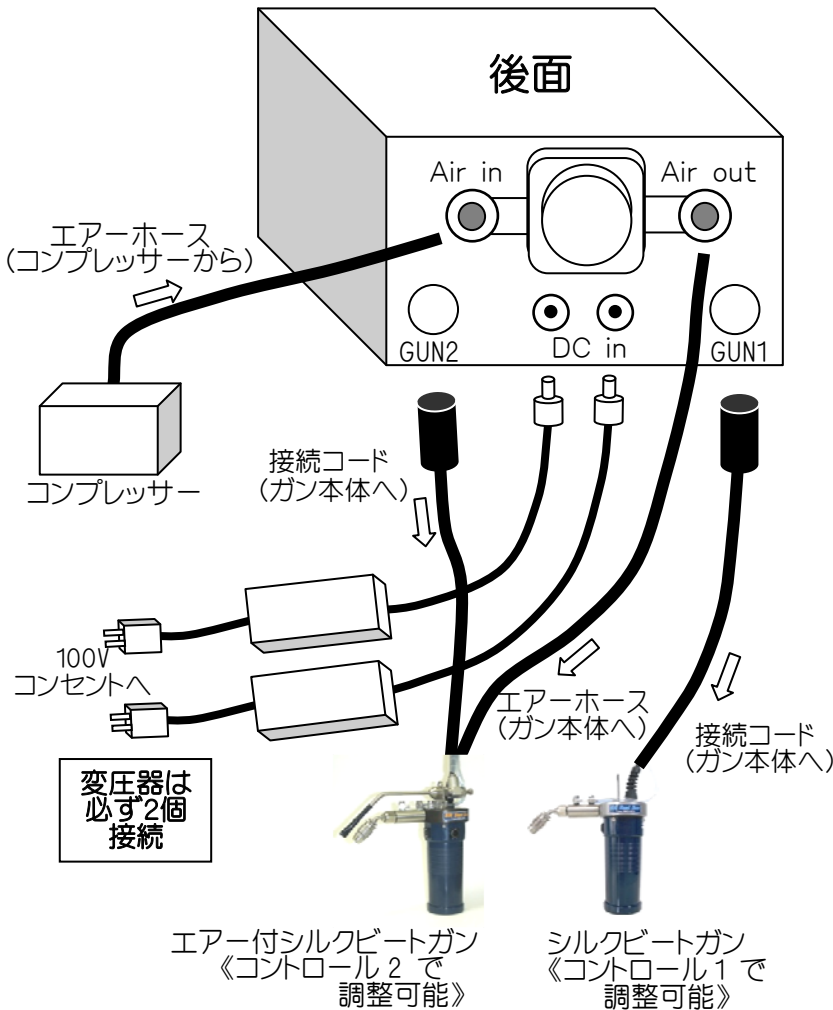
{バランス調整方法}

バランス裏面のダイヤルを右へ回すと、引き上げる力が強くなり、また逆にダイヤルを引きながら左へ回すと弱くなります。(写真19)用途に合わせて調節して御使用下さい。

ビートガン 接続方法 ①

— 標準型BOXの場合 —

(図 20)



【ビートガン接続方法】

- ① コントロールBOX裏面のDC INのコネクターに付属の変圧器を必ず2個接続して下さい。
- ② GUN 1及び2のOUT PUTコネクターにBOX表面のコントロールボリュームで調整するそれぞれのビートガンの電源コネクターを接続して下さい。
(GUN2はエア付 <主に水性>)
- ③ エア付の場合は、(図 20)を参考にして間違わないように接続して下さい。シルクビートガンとコンプレッサーの接続は4×6のウレタンチューブ(別売)にて、コントロールボックス裏面のクイックジョイントに接続します。(図 20) クイックジョイントを変更すると他のホースでも使用可能です。(2分ネジ使用)

エアの圧力は5kgf/cm以下で御使用下さい。5kgf/cm以上ある場合は、減圧弁にて下げて下さい。またエアの中に水が混ざっている場合はエアフィルターを付けて下さい。

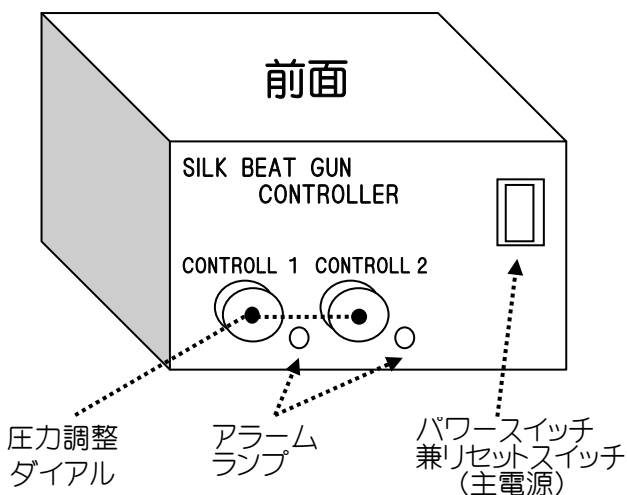
【使用方法】

- ① 前面のコントロールボリュームにて、各ガンの圧力を調整してご使用下さい。
- ② 何らかの形でBOXに異常が発生した場合は、各コントロールボリューム右横のアラームランプが点灯します。その場合は一度 Power Sw を OFF にして暫く経ってから電源を入れ直して下さい。(POWER SW がリセットスイッチの機能も兼ねています)(図 21)

注意

一度リセットした後でも、頻繁にアラームランプが点灯する場合はBOXの異常が考えられますので、ご購入店又は弊社にご連絡頂きますようお願いいたします。

(図 21)



— 標準型BOXの場合は11ページへお進みください —

ビートガン 接続方法 ②

— 連動型BOX 《オプション》 の場合 ① —

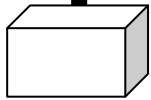
(ビートガン部)

- ① コントロールBOX裏面のDC INのコネクターに付属の変圧器を必ず2個接続して下さい。
- ② GUN 1及び2のOUT PUTコネクターにBOX表面のコントロールボリュームで調整するそれぞれのビートガンの電源コネクターを接続してください。(GUN2はエア付【主に水性使用】)
- ④ エア付の場合は、(写真22)を参考にし、6×4のエアーホースを間違わないように接続して下さい。



(写真22)

(AIR IN)
コンプレッサーからのエアーホースを接続して下さい



コンプレッサー

【注意】
ガン 1 台使用時でも、変圧器は必ず2個接続して下さい。

(AIR OUT)
ビートガンへ行くエアーホースを接続して下さい。



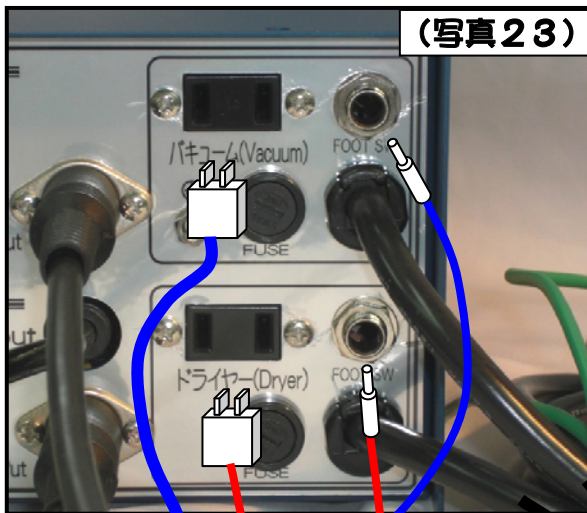
ビートガン

(バキューム・ドライヤー部)

- ① コントロールBOX裏面のバキューム用コンセントに、バキューム本体より出ている100Vの電源コードを接続して下さい。
- ② バキューム用コンセント右横のフットスイッチ端子に、付属のフットスイッチを接続して下さい。
- ③ 上記と同様に下段のドライヤー用のコンセント及びフットスイッチ端子にもドライヤー及びドライヤー用フットスイッチを接続してください。(写真23)

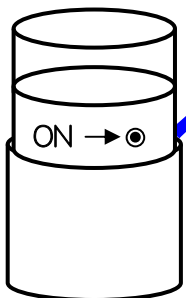
注意

接続した機器の電源スイッチはONの状態にしておいて下さい。

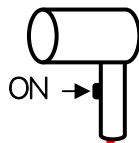


(写真23)

バキューム本体



ドライヤー



フットスイッチ

机裏のコンセントへ

— 連動型BOX 《オプション》 の場合 ② —

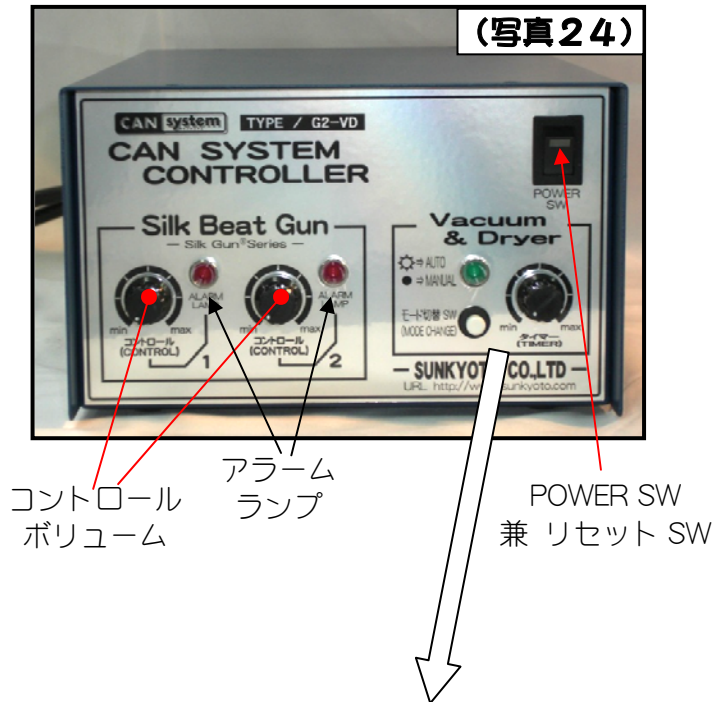
【連動BOX 操作方法】

(ビートガン部)

- ① 前面のコントロールボリュームにて、各ガンの圧力を調整してご使用下さい。
- ② 何らかの形でBOXに異常が発生した場合は、各コントロールボリューム右横のアラームランプが点灯します
その場合は一度 Power Sw を OFF にして暫く経ってから電源を入れ直して下さい。
(POWER SW がリセットスイッチの機能も兼ねています) (写真24)

【注意】

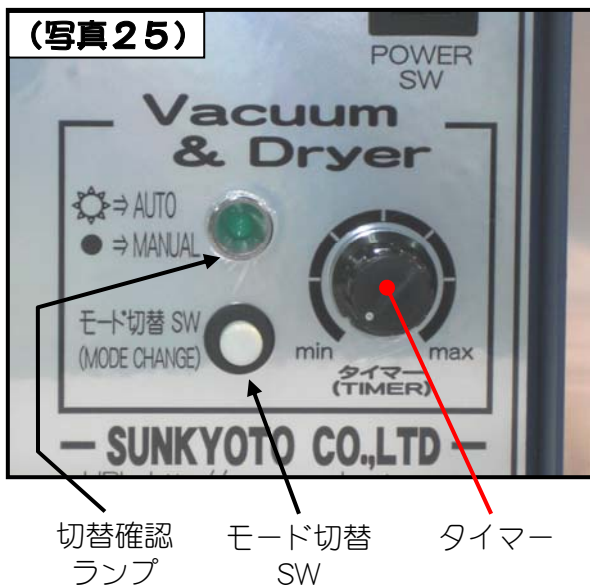
一度リセットした後でも、頻繁にアラームランプが点灯する場合はBOXの異常が考えられますので、ご購入店又は弊社にご連絡頂きますようお願いいたします。



(バキューム・ドライヤー部)

- ① モード切替 SW を押すと上の切替確認ランプが点灯しON(AUTO)になります。
- ② AUTOの状態でガン又はエアのスイッチを入れるとバキューム&ドライヤーが同時に作動します。
- ③ ガンの操作を終えるとタイマーにより任意設定した時間後に自動的にバキューム&ドライヤーが切れます。

(写真25参照)



【連動BOX 操作特徴】

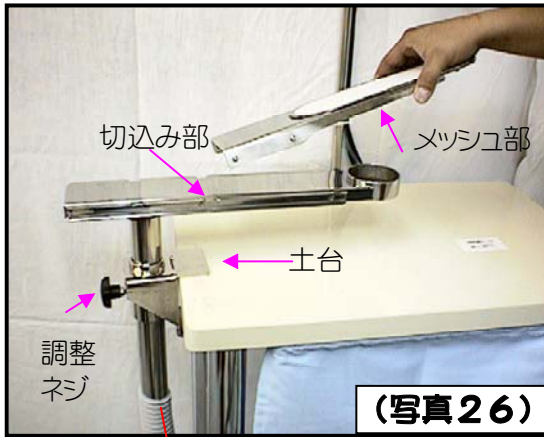
AUTO MODE(連動) (モード切替 SW ⇒ ON)

- 1) ガン又はエアのSWを押すことによって、バキューム&ドライヤーが連動して作動します。
 - 2) ガン又はエアのSWを離れた後、タイマーによって設定した時間でバキューム&ドライヤーが自動的に停止します。
- ◎ AUTO MODE時でも、個別のフットスイッチにてバキューム&ドライヤーを別々にON/OFFをする事が出来ます。

【注意】

AUTO MODEでバキューム&ドライヤー作動時に、フットスイッチにて手動ON/OFFさせると、その機器に対しては一時的に手動モードになり、タイマーで設定した時間で停止しなくなります。ただ、その状況でガン又はエアのSWを押すことによって自動的にAUTO MODEに復帰し自動停止するようになります。

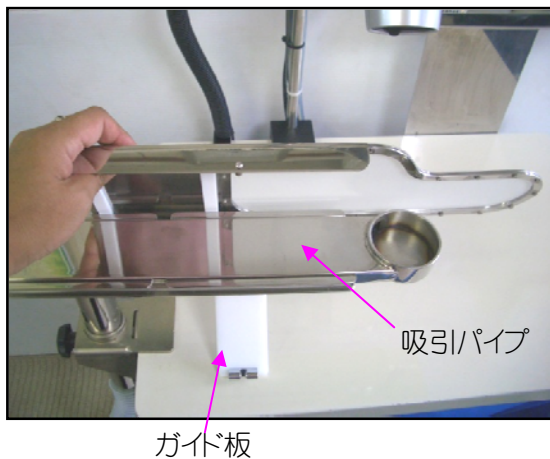
移動メッシュ式吸引台 取付方法



吸引機本体の
吸引口①へ

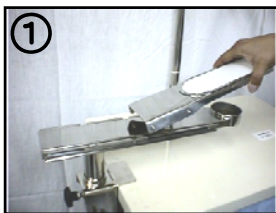
- ① 吸引台の土台を机の使い易い位置に、13mm スパナ等を使用して確実に固定して下さい。
- ② 上部メッシュ裏面のベアリング部を、土台のレールの切り込み部より差し込む様にして入れて下さい。
- ③ 吸引台の土台の角度調節ネジをゆるめる事によって、高さや角度が調整できますので、好みの状態に固定して御使用下さい。
- ④ ホースを吸引台に差し込んで、P9(写真27)の吸引機本体の吸引口①の部分に接続して下さい。

移動メッシュ式吸引台《ワイドタイプ(オプション)》取付方法

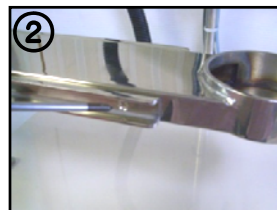


- ① ワイド型メッシュ裏部のガイド板で吸引パイプを挟み込むようにして取り付けます。

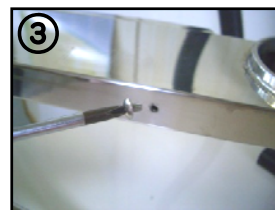
【従来のミニ用吸引台から変更する場合】



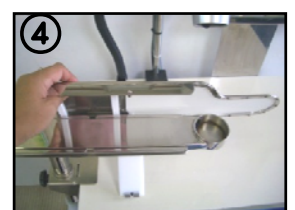
① 上部移動メッシュを
取り外します。



② 吸引パイプ横に取り
付けてあるメッシュの
ガイドレール(2本)を
外します。



③ 取り外したネジ穴から
空気が漏れないように
付属のネジを締めて塞
ぎます。

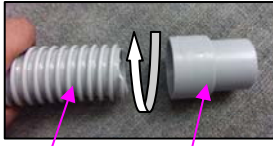


④ ワイド型メッシュ裏部の
ガイド板で吸引パイプ
を挟み込むようにして
取り付けます。

吸引機本体 接続方法

(吸引側)

吸引口 ①
ホースを付けて吸引台と接続。



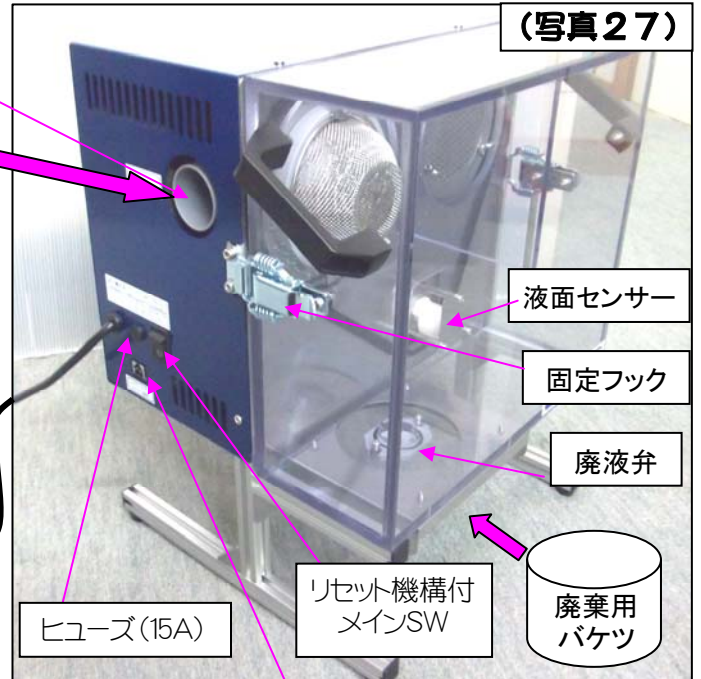
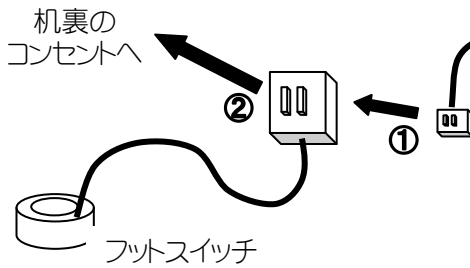
ホース

アダプター



アダプターを付けて
本体吸引口へ接続

電源コードは付属のフットスイッチに接続してから①
机裏のコンセントへ接続して下さい②。
(注意)ドライヤーの配線と同じコンセントにならないように!!



(写真27)

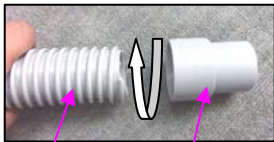
コントロールBOXと接続



(排気側)

モーター冷却用 吸引口③
絶対にふさがない様に注意!(週に一度の点検を)

臭気排気口 ②
ホースを付けて室外へ。



ホース

アダプター



アダプターを付けて
本体排気口へ接続

(排気ホースは、付属のインシュロックを使用して本体に固定します。)



(写真28)



予め本体側に付属のインシュ
ロックを通しておきます。



ホースにジョイントを付けて、
排気口に接続します。



ホースが抜けないように
インシュロックで固定します。

{ 電源接続 }

- ① 付属のフットスイッチのコネクターに一度差し込んでから、机裏の100Vのコンセントに接続して下さい。

ドライヤースタンドと併用される場合は、机裏の1つのコンセントに同時に差し込まず、吸引機本体とドライヤーのコードを2本別々のコンセントに差し込むようにして下さい。

(机裏コード1本の電気容量は計1500W迄の為、ドライヤー(1200W)と吸引機本体(1050W)を同時に差し込むと容量不足になります。)

- ② 吸引機本体のスナップスイッチはONにしておき、フットスイッチでON/OFFの操作をします。
- ③ 机に取り付けてある吸引カコントロールBOXのコードを吸引機本体に接続して下さい。
(コントロールBOXを接続しないと、吸引機本体は作動しませんのでご注意ください。)

吸引カコントロールBOX

(写真29)


【切替 SW】

MAX ⇒ モーターフル回転
調整 ⇒ 調整ダイヤルにより吸引力が調整可能(ランプ ON)

【便利な利用方法】

薬品塗布や色差し等の時は、切替 SW を調整の位置にしてモーターの回転を下げておき、その後洗浄時にはMAXの状態にして、モーターをフル回転にしてご使用下さい。
(調整ダイヤルを回して回転を上げる必要がありません)

任意の位置に調整



{ ホース接続 }

- ① 付属のホースを適当な長さに切って、アダプターに接続後(写真27)の吸引口①に差し込み、吸引台と接続して下さい。
- ② 付属のホースをアダプターに接続後、(写真28)の臭気排気口②に差し込み室外へ出して下さい。
ホースは出来るだけ短い方が吸引力が強くなります。
排気ホースはあまり上へ上げない様に、又、90°以上曲げない様にして下さい。
- ③ モーター冷却用 吸引口③(写真28)は、モーター冷却装置の吸排気口になっていますので、絶対にふさがないようにして下さい。
特にフィルターにはごみがたまりやすいので、週に一度の点検をして下さい。
(モーター焼付の原因になります。保証期間内でも保証対象外になります。)

{ タンク内の液体 }

- ① 吸引した液体は透明タンク内に一時溜まり、バキュームを停止させた時点で廃棄弁が開き下の廃棄用バケツに排出されます。
よって、廃棄弁が汚れていたりすると上手く排出できませんのでご注意ください。
(廃棄弁のメンテナンスについては別項(写真31)をご参照下さい)
- ② 使用頻度によりますが、バケツが一杯にならないように、溜まった廃液は頻りに捨てて下さい。
- ③ 万が一廃棄弁が上手く働かず排出できない場合(A)や、吸引を長時間止めずに使用した場合等、吸引した液体がタンクの許容量を超えると安全センサーが働きモーターが自動でストップします。
A) 廃棄弁が上手く働かない場合は、溜まった廃液を排出することが出来ません。
(写真30)を参考にタンク内の廃液を廃棄して、タンク及び廃棄弁を洗浄してください。
- ④ 安全センサーが働いた場合、そのまま続けて使用することが出来ません。
その場合は、本体横のメインSWを一旦OFFにしてから再度ONして下さい。
(メインスイッチがリセット機能を兼ねています。)

吸引機本体 各種メンテナンス ①

【透明タンクのメンテナンス】

透明タンク内が汚れてくると、廃液弁にも汚れが溜まり吸引した液体が上手く排出されなくなりますので、汚れが目立ってきたら透明タンクを洗浄してください。

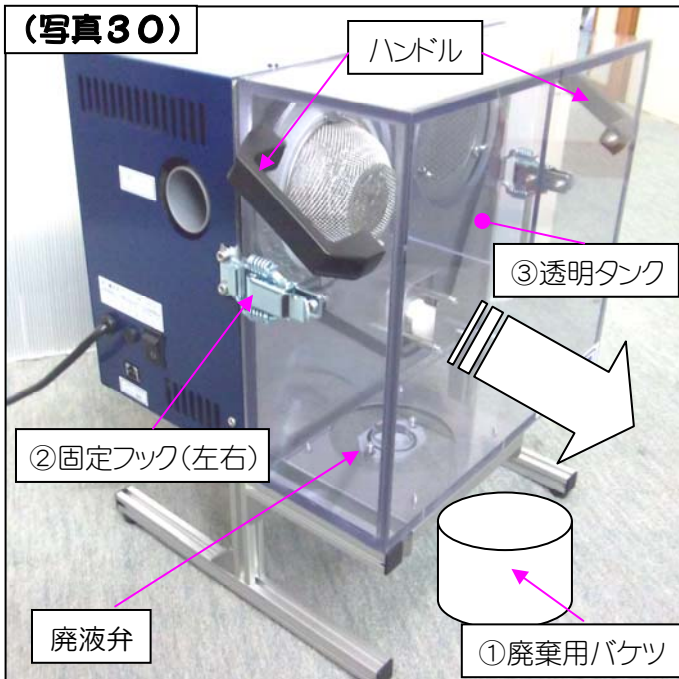
《透明タンク着脱方法》

- ① 廃棄用バケツを外す。
- ② 左右の固定フックを解除します。
- ③ ハンドルをしっかり持って、手前方向にスライドさせて取り外します。
- ④ 水道水等で内部や廃液弁部をきれいに洗浄してください。
(廃液弁部の洗浄は別項目参照)
- ⑤ 取り付ける場合は①～③の逆の順序で取り付けして下さい。

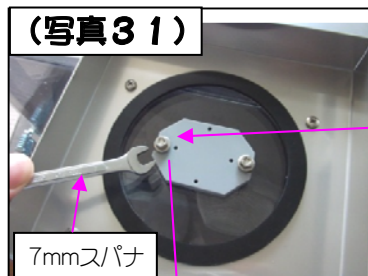
注意

底部に少し廃液が残留している場合があります。透明タンクを取り外す時、その残留液が廃液弁よりこぼれない様にご注意ください。

(写真 30)



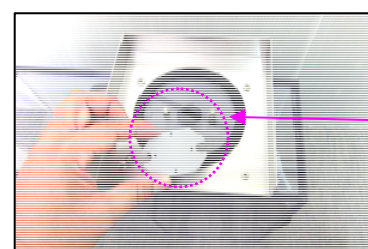
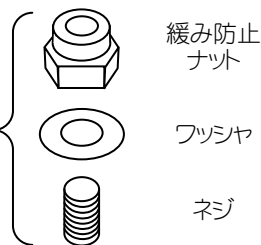
透明タンクの底部



- ① どちらか片方のネジを外します。

注意

取り付ける時は必ず工具を使用してしっかりと締め付けて下さい。



- ② 廃液弁を外して弁側・本体側の両方を洗浄します。

【廃液弁のメンテナンス】

- ① 廃液弁を止めているネジのどちらか片方を外します。(写真 31)
- ② 外した廃液弁を、Oリングが外れて紛失しないように注意しながら、きれいに洗って下さい。

注意

- ① 外れたOリングをはめる場合は、均等にしっかりとめ込んで下さい。
- ② 廃液弁を取り付ける場合は、必ず工具等を使用してネジをしっかり締め付けて下さい。締め付けが不十分ですと振動により廃液弁が外れ落ちてしまい、吸引力が極端に弱くなってしまいます。

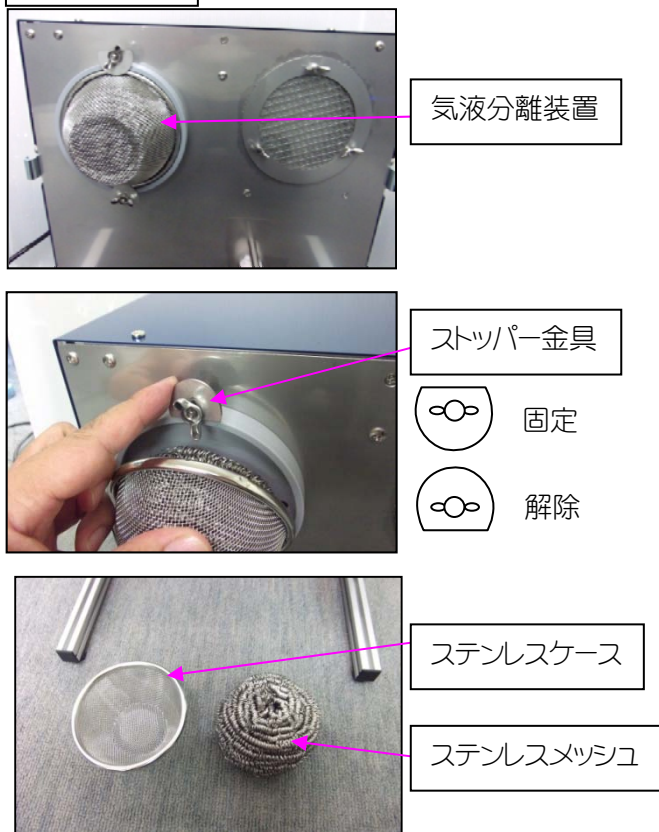


注意

洗浄時Oリングを紛失しないようにご注意下さい。

吸引機本体 各種メンテナンス ②

(写真32)

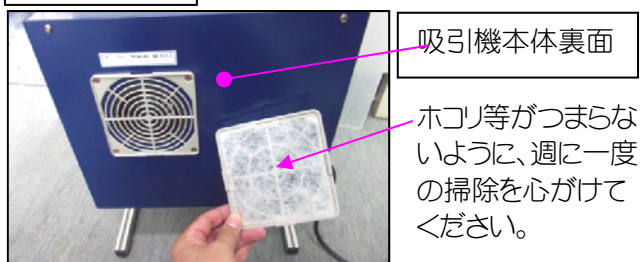


【気液分離装置のメンテナンス】

気液分離装置部分に汚れが付着していると、吸引力が弱くなったり、モーターに負荷が掛かったりしますので、分解洗浄して下さい。

- ① 蝶ネジを緩めるとストッパー金具が回り、ステンレスケースとメッシュが取り外せます。
- ② 取り外したステンレスケースとメッシュを、水道水等で洗浄してください。
- ③ 取り付けは逆の順序で行ってください。

(写真33)



【冷却口フィルターのメンテナンス】

本体裏面に設けてある、モーター冷却用空気取り入口部フィルターが目詰まりすると、モーターの冷却効率が悪くなり、最悪の場合モーターの焼く付きを起こす場合がありますので、週に1度の掃除をお願いいたします。

(モーター焼付の原因になります。)

保証期間内でも保証対象外になります。)

吸引機本体 各種メンテナンス ③

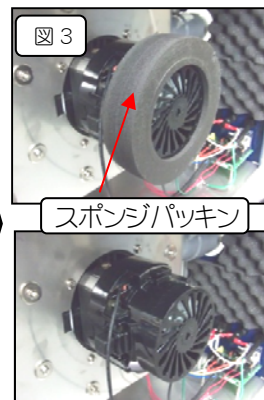
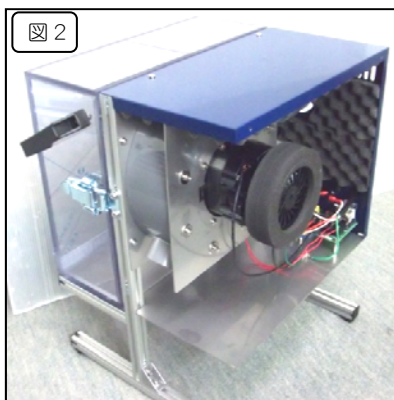
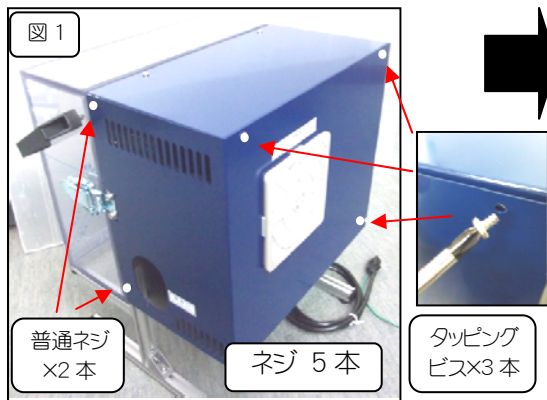
【カーボンブラシ 交換図】

吸引機本体が動かなくなった場合は、吸引機本体内部のモーターに付いているカーボンブラシの消耗が考えられますので下記の説明を参考にカーボンブラシを交換して下さい。

※ カーボンブラシを交換する前に下記の事項をチェックして下さい。

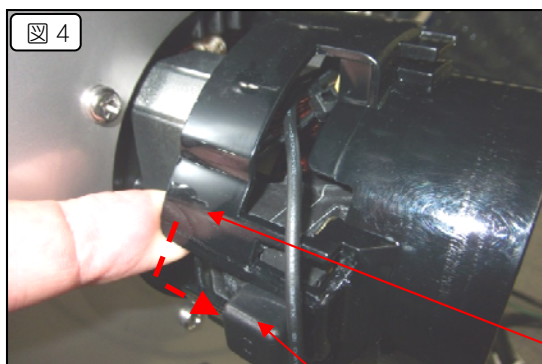
- ① 本体スイッチのON/OFF (吸引機本体側面に付いているスナップスイッチがONになっているか)
- ② フットスイッチの不良 (吸引機本体から出ている黒い電源コードを、フットスイッチを通さずに100Vのコンセントに直接差し込んで、吸引機本体が動けばフットスイッチの不良です)
- ③ ヒューズ切れ (吸引機本体側面に付いている15アンペアのヒューズが切れていないか?)

カーボンブラシを交換する場合は、必ず電源プラグを抜いてから作業を行って下さい。

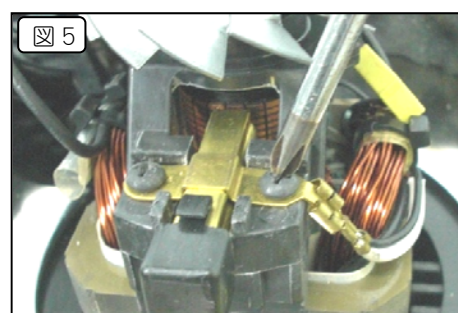


① (図1)の5箇所のネジを外すと、L型のふた部分が取り外せて、モーター本体が見えてきます。(図2)

② モーター本体の上部に付いているスポンジパッキンを取り外します。



③ プラスチックカバー下部を指で外方向に引きながら押し上げるとカバーが外れます。(反対側の部分も同じように外します)

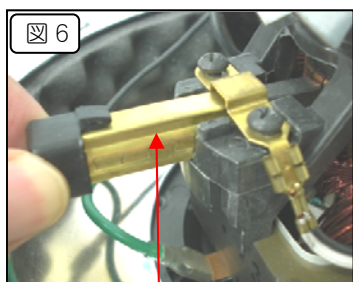


④ カーボンブラシを押えている金具を、+ドライバーを使用して緩めてカーボンブラシを外し交換して下さい。

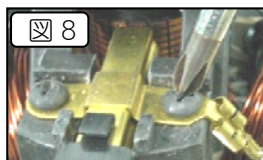
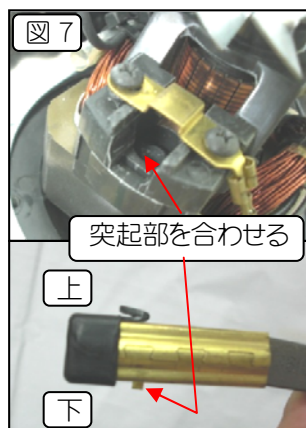
手前へ引きながら上へ押し上げる。

カーボンブラシ

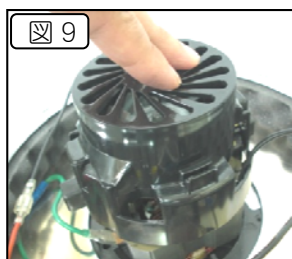
プラスチックカバー



カーボンブラシホルダーごと交換する



⑤ カーボンブラシを押えている金具を、+ドライバーを使用してしっかり締める。



⑥ コードを挟まないように注意しながらプラスチックカバーを閉めます。

- ⑦ 図3を参考に**必ず**スポンジパッキンを取り付けます。
- ⑧ 図1を参考にL型のふたを取り付けます。

故障かな?と思う前に・・・(バキュームシステム編)

症 状	原 因	対 処 法
バキュームが動かない	本体側のメインスイッチがoffになっていませんか? 吸引力コントロールBOXは接続されていますか? ヒューズがきれていませんか? 吸引した液体が満タンになって、液体センサーが作動してないですか?	→吸引機本体のSWはONにしたまま、フットSWにてON/OFFします。(写真27を参考) →吸引力コントロールBOXが接続されてないと吸引機本体は動きません。写真 27 を参照に接続して下さい。 →(写真 27)を参照。 →液体センサーが作動した後は、一度メイン SW を OFF/ONして安全装置をリセットさせないとバキュームは動きません。(写真 27)を参照。
	フットスイッチが故障していませんか? フットスイッチの配線が間違っていますか?	→吸引機本体の電源コードを、フットスイッチのコネクターを通さずに直接コンセントに差し込んで下さい。この状態で動くようでしたら、フットスイッチの故障又は配線不良が考えられますので、フットスイッチを交換または配線チェックして下さい。(ナショナル まごの手フットスイッチ)
	カーボンブラシが接触不良又は消耗していませんか?	→上記確認をしても動かない場合はカーボンブラシの接触不良又は消耗が考えられますので付属のカーボンブラシと交換又は点検してください。(説明書は付属のカーボンブラシに同封) 接触不良の場合は、別紙説明書を参考にしてカーボンブラシを一度取り外して、ブラシホルダー内部のカーボンのカスをエアで吹き飛ばすか、掃除機等で吸い取ってからカーボンブラシを取付けて下さい。
バキュームの吸引力が弱い	気液分離装置が目詰まりしていませんか? 透明タンク下部の廃棄弁は、正常に機能していますか? 吸引力コントローラーが弱くなっていませんか?	→(写真 31)を参考に、気液分離装置を掃除して下さい。汚れがひどい場合は交換をお勧め致します。 →振動等により取り付けネジが緩んで、廃棄弁が落下等して廃棄弁が上手く作動していないと、透明タンク内の真空が保たれずに吸引力が極端に弱くなってしまいます。(写真 31)を参考に確認・取り付け洗浄して下さい。 →(写真 29)を参考にコントローラーを調整して下さい。
モータが動いているのに吸引しない	吸引のホースが外れていませんか	→(写真 27)を参考に、本体と吸引台をしっかりと接続して下さい。
ドライヤーが動かない	ドライヤー本体のスイッチがOFFになっていませんか?	→グループではさまれているドライヤー本体のグループ部のスイッチをONにして下さい。
	フットスイッチが故障していませんか?	→写真12を参考に確認して下さい。ドライヤースタンドから出ている電源コードを、フットスイッチのコネクターを通さずに直接コンセントに差し込んで下さい。この状態で動くようでしたら、フットスイッチの故障が考えられますのでフットスイッチを交換して下さい。(ナショナル まごの手フットスイッチ)
	ドライヤーが故障していませんか?	→ドライヤースタンドのグループよりドライヤーを取り外して、直接コンセントに差し込んで動かなければドライヤーの故障が考えられますので交換して下さい。(市販のヘアードライヤーでOKです)
ドライヤーの温風が出ない	ドライヤー本体のスイッチがCOOLになっていませんか?	→HOTに切り替えて下さい。
	ドライヤーのヒーターが切れていませんか?	→センサーが働いて、一時的に切れる場合が有りますが、しばらくすると直ります。時間が経っても直らない場合はヒーターの断線が考えられますので、新しいものと交換して下さい。(市販のヘアードライヤーでOKです)

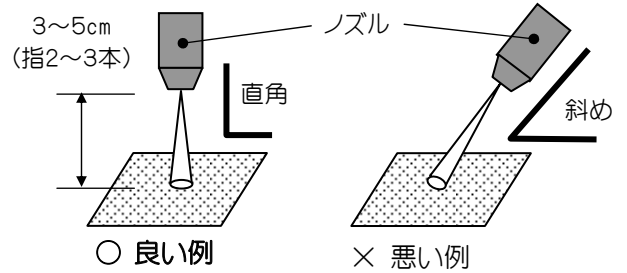
シルクビートガン 取扱説明書

Type/SB-303 & SBA-503

◎ 角度及び距離性 (図1)

- 生地より3~5cmほど離して、また生地に対して液が垂直に当たるようにしてご使用下さい。生地に対して液が斜めに当たったり、生地との距離が近すぎたりすると、生地よれ等の原因にもなりますので、ご注意下さい。

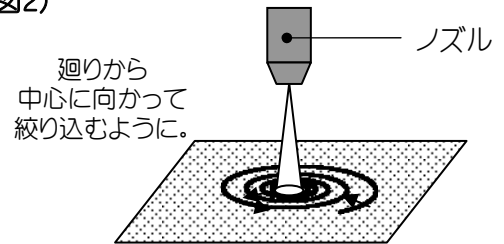
(図1)



◎ 手順 (図2)

- シミ、汚れの中心からいきなり処理すると、シミ、汚れが周りに広がる場合がありますので、汚れに対して周りから中心へ絞り込む感じに落としていく様になると、汚れが周りに広がりにくく、効率のよい、しみ汚れ落としが出来ます。

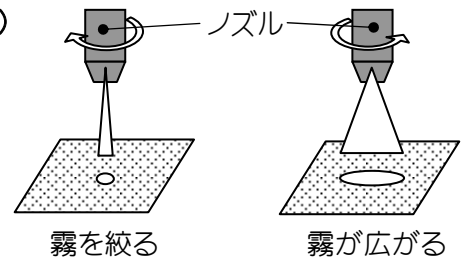
(図2)



◎ ノズルについて (図3)

- ノズル本体を左右に回すことにより、霧の状態が調整出来ます。生地厚や汚れの度合い等の状況によって、調節してご使用下さい。
- シルクビートガンには、霧を絞りすぎて生地を痛めないために、調整可能なストッパーが付いています。詳しい調整の方法は別紙ノズルストッパー設定方法を御覧下さい。

(図3)



◎ 圧力調整

- シルクビートガンのBOXに付いているダイヤルによって、圧力を簡単に調整することが出来ます。生地厚や汚れ度合いによって、ダイヤルを調整しながらご使用下さい。

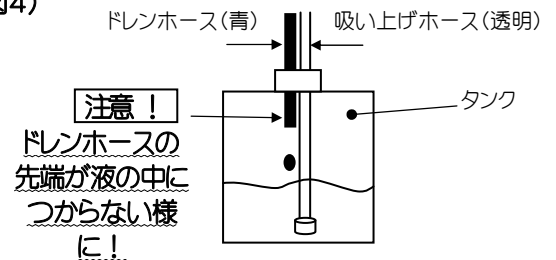
◎ エアー部

- 右手でシルクビートガン(エアー付)を持って頂くと、親指に当たる所にあるスイッチがエアー用のスイッチです。スイッチを押すことにより、エアーのON / OFFが出来ます。
- 基本図のエアー調整ネジを回すことにより、エアーの吐出量が変わります。生地に応じて調整して御使用下さい。
- コンプレッサーの圧力は5Kgf/cm以下で御使用下さい。5Kgf/cm以上のものを使用される場合は、減圧弁にて圧力を下げて御使用下さい。(オプション)

◎ ドレン液 (図4)

- シルクビートガンはポンプ内のドレン止めOリングによって基本的にはドレン液が出ない構造になっていますが、万が一Oリングが消耗しても、ポンプ内部の特殊構造によって、ドレン液を強制排出させるようになっていますので、排出の抵抗が出来るだけ掛からないように、ドレンホース(青色)の先端が液体の中につからないようにして下さい。又ドレンホース(青色)が途中で折れていたり、エアー弁がホコリ等で塞がれていたりすると、ドレン液が排出できなくなり、ガン内部に液が入ってしまう可能性がありますのでご注意下さい。(ドレン液が多量に出ようになった場合は、念の為ドレン止めOリングを交換して下さい。)

(図4)

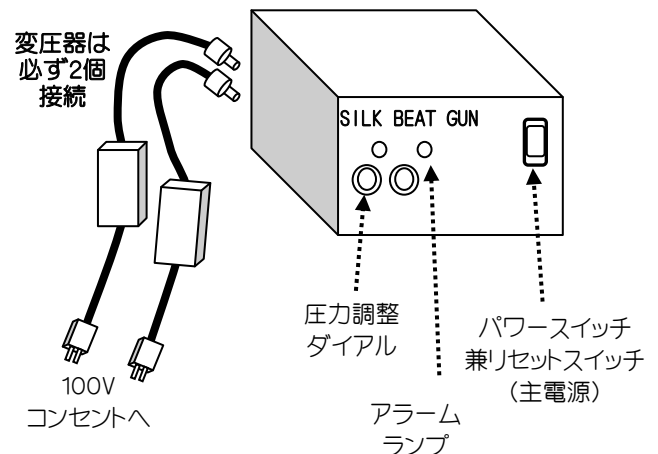


◎ コントロールBOX (図5)

- **コントロールBOX側面のDC Inコネクタ(2箇所)に、付属の変圧器を必ず2個共接続し、100V電源へ差し込んで下さい。2個接続しないとガンが正常に動作しなくなります。**

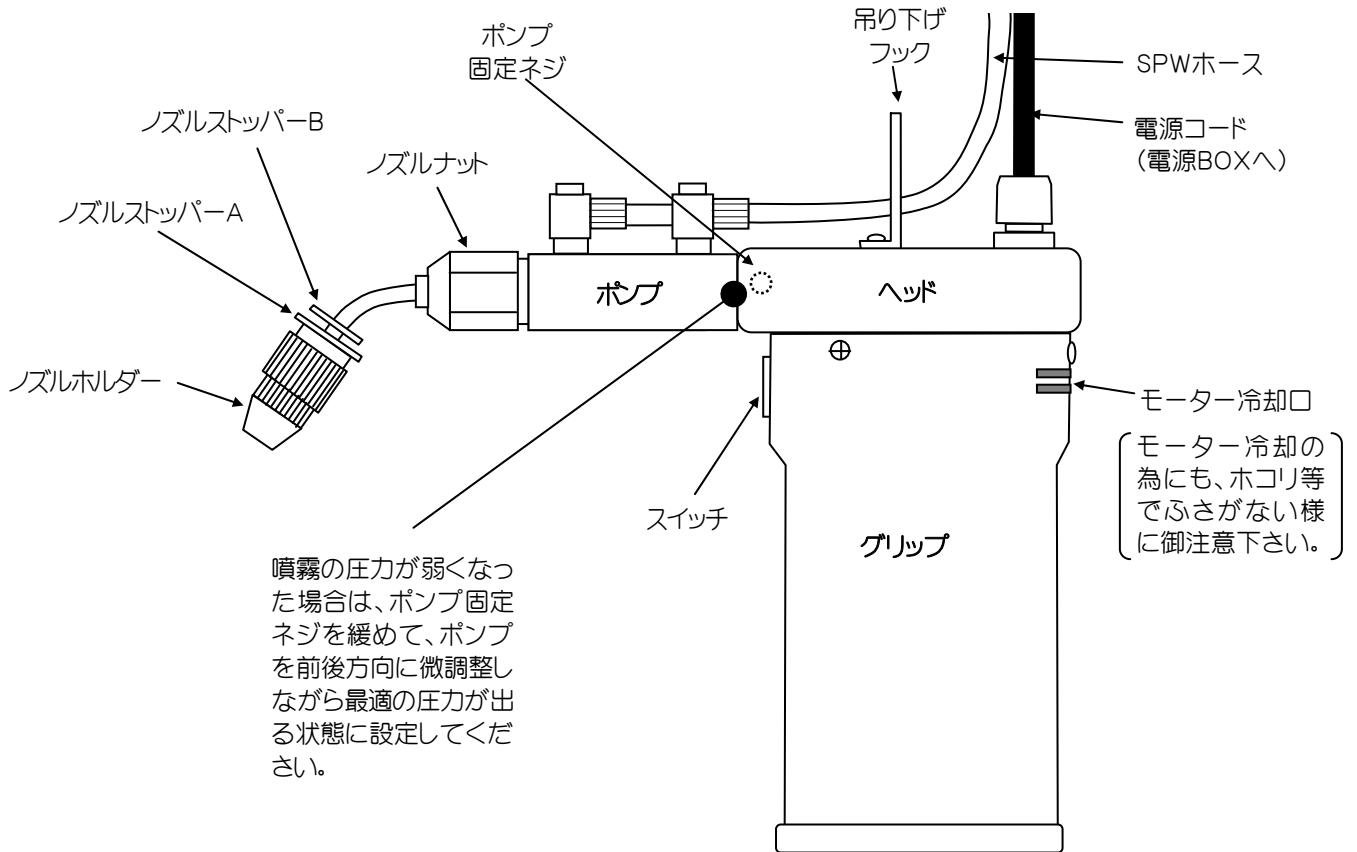
シルクビートガンのコントロールBOXには、内部に異常が発生すると安全装置が働き、自動的に電源をカットする機能が付いています。安全装置が働くとパネル前面のアラームランプが点灯しますので、その場合はパワースイッチを入れ直して下さい。(パワースイッチがリセット機能を備えています)(何度もアラームスイッチが点灯する場合は、内部の故障が考えられますので、お手数ですが販売店等に御連絡下さい)

(図5)

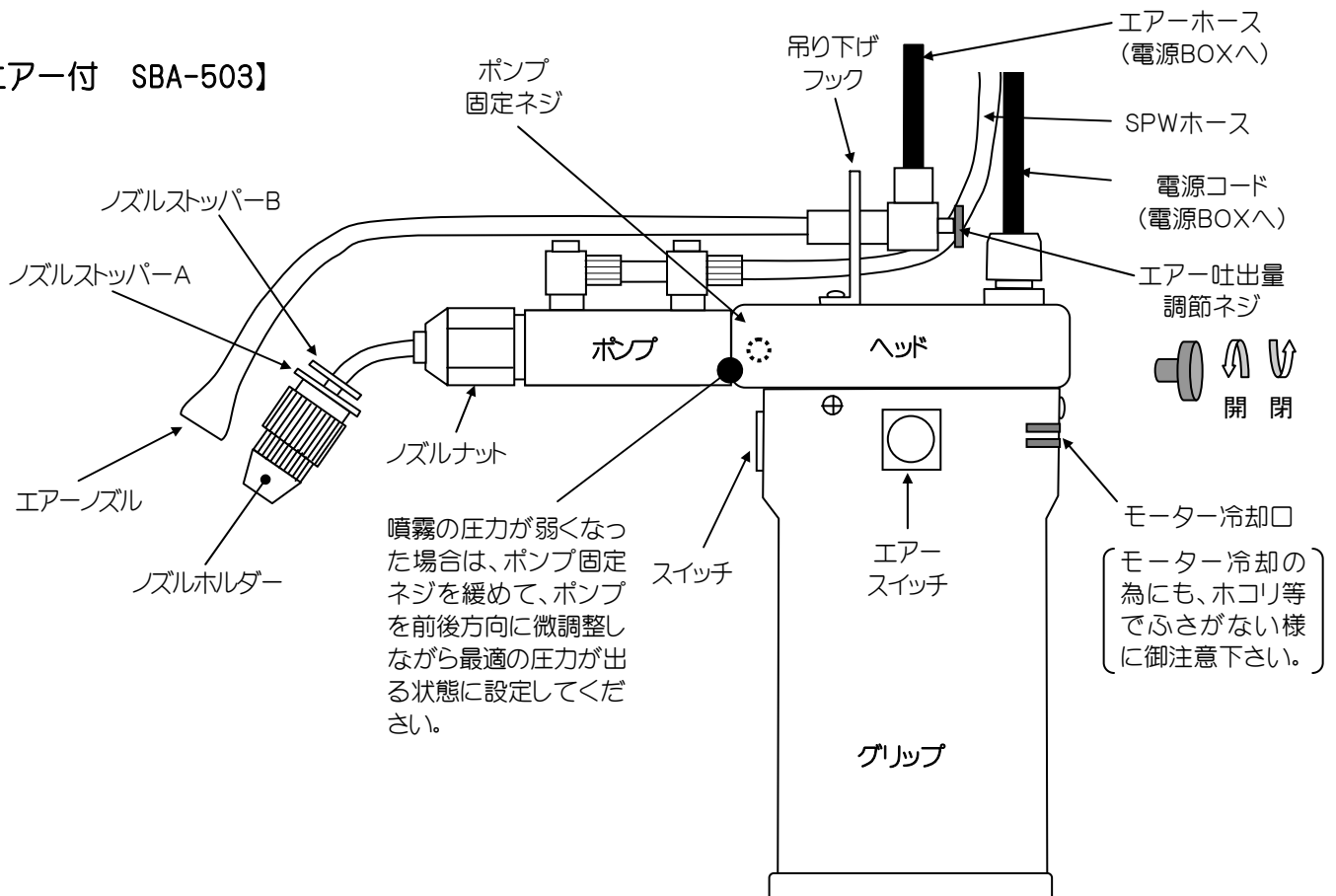


【シルクビートガン 基本図】

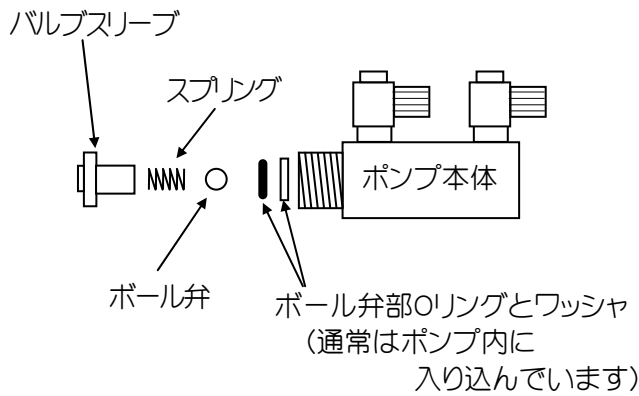
【エア-無し SB-303】



【エア-付 SBA-503】



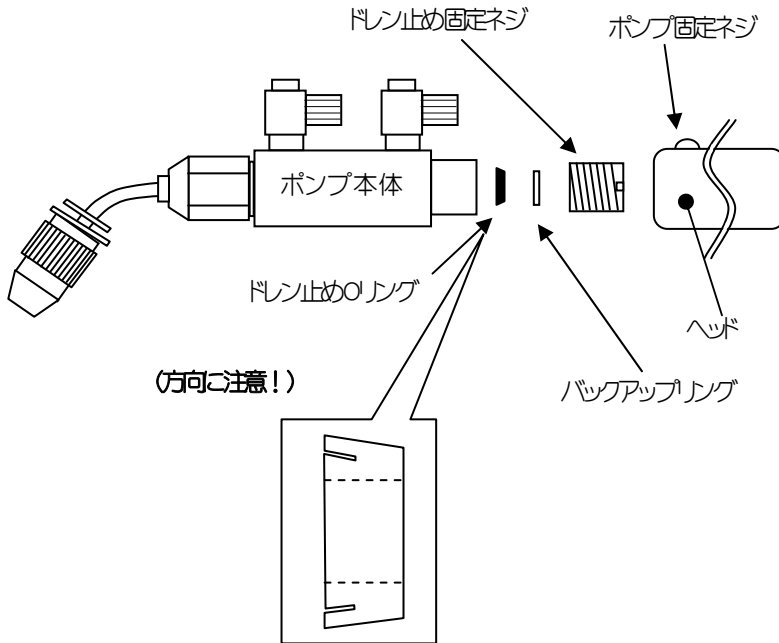
ポンプ内ボール弁 分解図



液が上がらない又は液が下がってしまう場合はボール弁部のごみ付着等が考えられますので、左図を参考にして、ごみを取り除いて下さい。

- ① ノズルナットをゆるめてノズルユニットをポンプ本体より外して下さい。
- ② ポンプ先端よりバルブスリーブを外して下さい。
- ③ ポンプ中にスプリング & ボール弁が残っているようでしたら、それらを取り出して、ボール弁に付着している異物等をきれいに取り除いて下さい。
- ④ 念の為、ポンプの中も綿棒で掃除して下さい。
- ⑤ ボール弁部Oリングは基本的にはポンプ内に入り込んでいるものですが、状況によっては細い棒状のようなもので取り出して、内部も掃除して下さい。
- ⑥ ①～③の逆の順で組んで下さい。

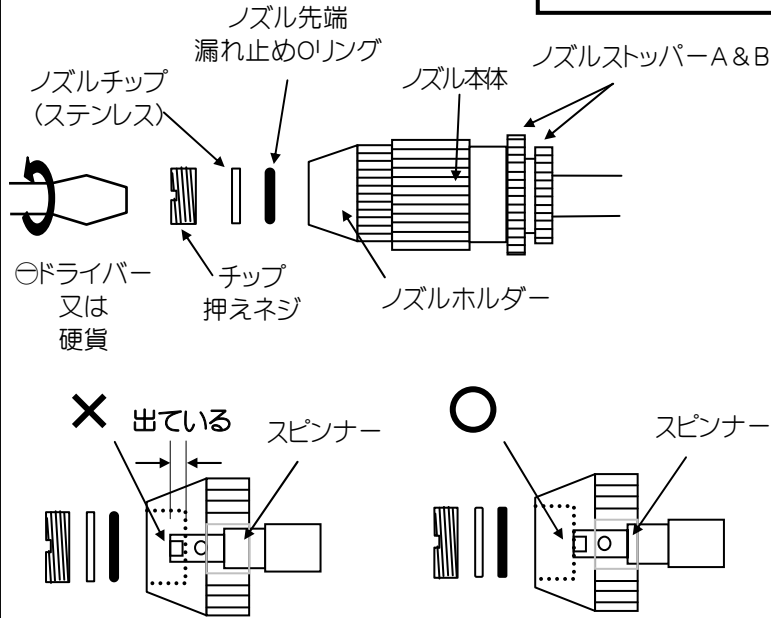
ドレン止めOリング交換図



ドレン液が多量に出る場合は左図を参考にして、ドレン止めOリングを交換して下さい。

- ① ポンプ固定ネジを2箇所緩めて、ヘッドよりポンプ本体を引き抜いてください。この時念の為ヘッドとポンプ本体との隙間の距離を確認しておいて下さい。
(Oリング交換後に組み立てる時、この箇所の距離を覚えておく調整時に便利です) (基本図のガン本体図参照)
- ② マイナスドライバーでポンプ本体内部のドレン止めネジを取り外して下さい。
- ③ ポンプ内部に入っているバックアップリング及びドレン止めOリングを取り出して下さい。
- ④ 新しいドレン止めOリングを変形しない様に注意しながら、先の丸いような細い棒等でポンプ本体内部に挿入して下さい。又方向にも注意して下さい。少し広がっている面がポンプ内部側になります。
- ⑤ 先程取り外したバックアップリングを挿入して下さい。
- ⑥ ドレン止め固定ネジをしっかり締め付けて下さい。
- ⑦ 組み上げたポンプ本体をガン本体のヘッド部分に取り付けてください。この時初めに設定していた隙間の距離にして頂ければ、最も圧力が出る状態になります。
- ⑧ ポンプ固定ネジをしっかり締め付けて下さい。

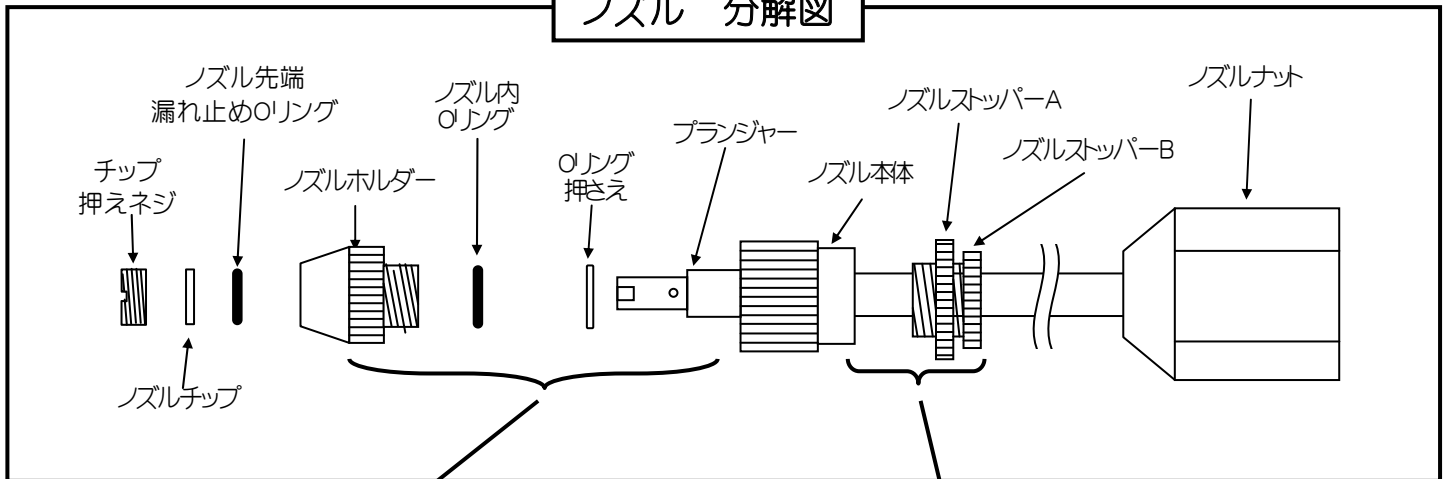
ノズル先端 分解図



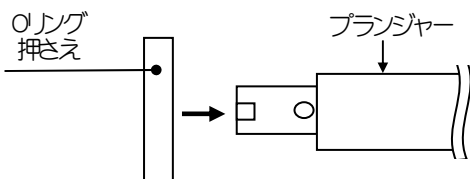
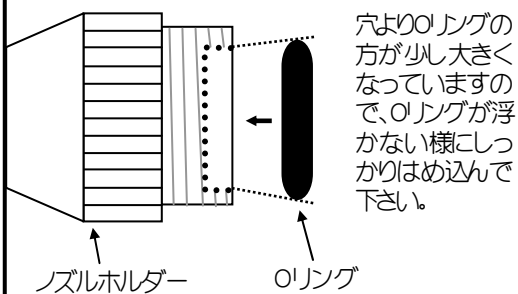
霧が割れたり、液が急に出なくなった場合はノズル先端チップにゴミが詰まった可能性がありますので、左図を参考に分解して頂き、異物を取り除いてください。

- ① ノズル本体を、霧を絞る状態方向に回します。
- ② ノズルホルダーをしっかりと固定して頂き、チップ押さえネジの先端よりOドライバーや硬貨等でネジを緩めて外してください。
- ③ ノズルチップ・ノズル先端パッキンを取り出し、ノズルホルダー内のゴミを綿棒等を使用して取り除いて下さい。穴が詰まっている場合は、針などで穴を傷めない様に取って下さい。
- ④ 左図を参考に、ノズル本体を霧を絞る状態方向に回して、パッキン・チップを入れて押さえネジで締め付けたとき、プランジャーがノズル先端パッキンに干渉しない事を確認しながらチップ押さえネジをしっかり締め付けて下さい。

ノズル 分解図

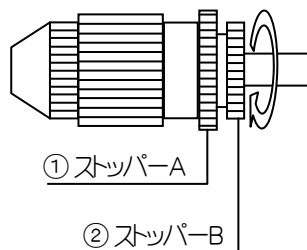


ノズル内Oリング



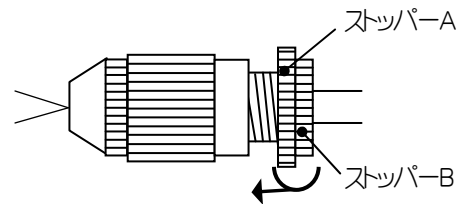
Oリング押さえは、プランジャーに差し込んでからノズルホルダーと組み立て下さい

ストッパー外し方

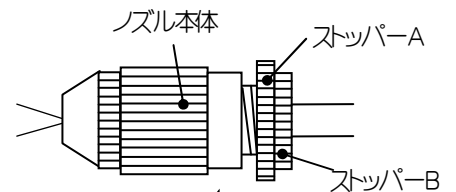


- ① ストッパー-Aを緩めてから
- ② ストッパー-Bを外します。

ストッパー設定



ストッパーを利かせたい霧の状態にノズルを回転調整した後、ストッパー-Aとストッパー-Bを合わせて矢印方向に閉めていきます。



ストッパー-A・Bの回転が止った状態で、次にストッパー-Aだけを矢印の方向に閉めて、最終でペンチ等でノズル本体と、しっかり締め合わせて固定して下さい。

故障かな？ と思う前に・・・(シルクビートガン編)

症 状	原 因	対 処 法
☆モーターの回転数が落ちる！	★使い始めは機械各部が慣れていない為 回転が上がりにくいことがあります ★ご使用の液に粘度がありませんか？	◎液を通さずに15～20秒カラ打ちして下さい。 ◎粘度の少ない液をご使用下さい。
☆コントロールBOXの電源が入らない！ ☆シルクガンの回転が遅い！	★コンセントが抜けていませんか？ ★ヒューズが切れていませんか？ ★変圧器の接続が1台ではないですか？	◎コントロールBOX背面のヒューズを交換してください。(2アンペア) ◎変圧器1台の接続では電気容量が足りません。必ず2台共接続してください。
☆コントロールBOXの電源は入っているのに、シルクガンが動かない！	★BOXとシルクガンのコードが確実に接続されていますか？ ★ノズルの穴がふさがっていませんか？ ★アラームランプが点いていませんか？	◎接続部を確認してください。 ◎ノズル分解図を参考に、ノズルホルダー内やノズルチップ部の異物を取り除いてください。 ◎一度主電源をOFFにして3秒程してから再度電源をONして下さい。(リセット機能) (繰り返しアラームが点灯する場合は、BOXまたはガン本体の異常が考えられます。ご使用をお止め頂き販売店様又は当社にご連絡下さい。)
☆霧の方向が急に変わる、霧が割れる ☆ノズルの繋ぎ目から液漏れがする！ ○ノズルナットの部分 ○ノズル先端部分 ○ノズルストッパーの部分	★ノズルの中に異物が入ってませんか？ ★ノズルナットがしっかり締まっていますか？ ★チップ押さえネジがしっかり締まっていますか？ ★ノズル本体とノズルホルダー間がゆるんでいませんか？ ★ノズル内Oリングが消耗していませんか？	◎ノズル先端分解図を参考に、ノズルホルダー内の異物を取り除いてください。 ◎14mm スパナ等でポンプ本体にしっかり締めつけて下さい。 ◎ノズル先端分解図を参考に、一度チップ押さえネジを緩めて、プランジャーの状態を確認してからドライバー等でしっかり締め付けて下さい。 ◎ノズル本体とノズルホルダー間を2本のペンチ等でしっかり締めて下さい。 ◎ノズル分解図を参考に、ノズル内Oリングを交換してください。
☆液が上がってこない！	★ノズルの穴がふさがっていませんか？ ★ポンプ内ボール弁にごみがついていませんか？	◎ノズル内の異物を取り除いてください。 ◎ポンプ内ボール弁分解図を参考に、ゴミを取り除いて下さい。
☆液が下がる！	★ポンプ内ボール弁にごみがついていませんか？ (ポンプ内の真空が保たれずに液が下がってしまいます。) ★ホースの何処かで穴が開いていませんか？ (ポンプ内の真空が保たれずに液が下がってしまいます。)	◎ポンプ内ボール弁分解図を参考に、ゴミを取り除いて下さい。 ◎ガンを打っている状態で、ホース内に気泡が発生している箇所があるようでしたらホースを交換してください。
☆水圧が弱くなった！ ☆液が出なくなりました！	★コントロールBOXの圧力調整ダイヤルが動いていませんか？ ★ポンプの位置が動いていませんか？	◎コントロールBOXの圧力調整ダイヤルを確認して下さい。 ◎基本図を参考に、ポンプの位置を調整して下さい。
☆ポンプとヘッドの継ぎ目より液が出てきた！	★ドレンホース先端が液の中に入っていないですか？ ★ドレンホースが途中で折れていませんか？ ★エア弁にゴミがたまって塞がっていませんか？	◎ドレン液が出やすいようにホース先端は液中に入らないようにして下さい。 ◎エア弁等でエア弁部のゴミ等を掃除して下さい。
☆エアが出ない ☆エアが止まらない	★エア吐出量調節ネジが閉まっていますか？ ★エアの圧力が5Kgf/cm 以上に上がっていますか？	◎基本図を参考にエア吐出量調節ネジを開けて下さい。 ◎コンプレッサー本体で減圧できない場合は弁等を使用して5Kgf/cm 以下に下げして下さい。

警 告

- ☆ 引火性のある液は危険ですので、ご使用にならないで下さい。
- ☆ シルクビートガンの噴霧液は高圧力ですので、お子様が誤って手の触れる事のない様御注意下さい。
- ☆ ノズルの先を人の顔などに向けないように、御注意下さい。
- ☆ シルクビートガンをシミ抜き以外の目的で使用しないで下さい。
- ☆ シルクビートガンは精密機械なので、指定箇所以外は絶対分解等しないでください。
又指定箇所の部品交換時は必ず電源プラグを抜いてから行って下さい。

【メモ】

A series of horizontal dashed lines for writing notes.

パワースチームガン 取扱説明書

この度は、パワースチームガンをお買い上げ頂き、誠に有難う御座います。
末永くご使用頂く為に、下記の使用法を良くお読みの上、正しくご使用下さいませようお願い致します。

【特 徴】

パワースチームガンは、ボイラー等の配管が一切不要で、100Vの電源だけで柔らかくて強力な蒸気を安定して連続的に出せます。

又、蒸気量の調節やコテとスチームの切替えも、ボリューム調整で簡単に出来ますので、黄変抜きや残留色素抜き、又、その他熱を必要とする薬品などの処理に、変化を確認しながら使用できます。

【付属品及び各部名称】

基本図 【01】



パワースチームガン 【Type PST-01】
AC100V/60～500W (FUSE 6A)

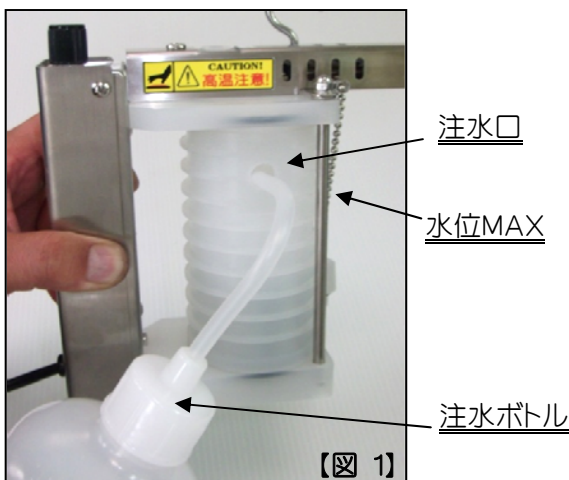
まず はじめに…!!

パワースチームガンは、伝導効率を上げて蒸気を発生させる為に
タンク内に少量の塩を添加します。

この塩の量によって蒸気量が増減いたしますので、
必ず下記の取扱説明をよく読んで正しくご使用頂きますようお願いいたします。

【使用法】

商品納品時には予め適量の塩がタンク内に添加されております。
使い始めは水（精製水等）のみを注入して下さい。



① まず、電源を入れる前に、注水口キャップを取り外して、注水ボトルで注水口よりタンクへ水のみを注入して下さい。（必ず水位を守って下さい。入れ過ぎるとノズルから吹き出る恐れがあります。）

② 注水口キャップをしっかり閉めて、電源を入れて下さい。

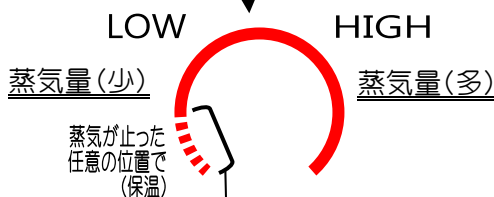
【注意】

水は必ず精製水等をお使い下さい。
水道水を使うと水中の不純物等がヒーターに付着して蒸気の出が悪くなる事があります。

③ 電源を入れた後、ボリュームを HIGH の位置まで回して下さい。（LOW の位置のままではタンク内の水が沸騰しません）

④ 電源を入れ始めた時のみ蒸気発生まで 2 分程掛かります。使い続ける時は、その都度電源を切らずに、コントロールダイヤルを保温の位置（蒸気がちょうど止まった位置）にしておくとタンク内の水が温められた状態になり、コントロールダイヤルを回すとすぐに蒸気が出てきます。

※ダイヤルを蒸気がちょうど止まった位置以上に左に回し過ぎると、タンク内の水が冷めてしまいすぐに蒸気が出なくなります。



【保温状態】

蒸気がちょうど止まった位置
にしておくと、次回使用時に
すぐに蒸気が出てきます。

注意！《LOW (保温) の範囲内で調整が出来ない場合…》

◎ 保温の範囲なのに蒸気が出てしまう。
の場合は、次ページの【タンク内の塩分濃度調整】を参考に
再調整して下さい。

⑤ コントロールダイヤルを回すことによって蒸気の調整が簡単に出来ます。用途に合わせて調節してご使用下さい。またノズルの先端は温度が上がっておりますので、コテとしてもご利用できます。作業内容によって使い分けて下さい。

【タンク内の塩分濃度調整】



◎通常使用時は

水(精製水)のみを入れて下さい。

- ① 納品時にはタンク内に適量の塩が投入されておりますので、水(精製水等)のみを入れて下さい。
- ② 通常使用にてタンク内の水が無くなったり減ってきた場合も、水(精製水等)のみを入れて下さい。

注意！

リセット水を注水すると、塩分濃度が高くなり保温状態にしても蒸気が出続けたり、ダイヤルをHIGHまで上げた時にヒューズが切れたりします。

《こんな場合は下記を参照にタンク内の塩分濃度を調整して下さい》

症 状	原 因	対 処 法
◎タンク内の水を捨ててしまった。 ◎タンクに水を入れすぎて、沸騰したときにノズルから吹きこぼれてしまった。	塩分濃度が変化してしまいます。	<p style="text-align: center;">下記の手順にて、タンク内の塩分濃度をリセットして下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 一度タンク内の水を捨てて下さい。 ② タンク内を水で2～3回すすいでしっかりと洗淨して下さい。 ③ 付属のリセット水を、残さないように1本全てタンクに注水して下さい。 ④ 規定量を超えないように注意しながら水(精製水等)を注水して下さい。
◎ダイヤルを保温の状態にしても蒸気が出る。	塩分濃度が濃くなり、蒸気発生率が高くなっています。	
◎電源を入れるとヒューズが切れる	塩分濃度が濃くなり、通電性が高まり規定よりも多くの電気が流れている。	
◎ダイヤルを保温の状態から上げて、すぐに蒸気出ない。	塩分濃度が薄くなり、蒸気発生率が低くなっています。	

【薬品の使用法】

—薬品の使用方法については30ページをご参照ください。—

故障かな？ と思う前に・・・(パワースチームガン編)

症 状	原 因	対 処 法
電源を入れても蒸気が出ない	① 電源が入っていますか？ ② コントロールダイヤルが 上がってますか？ ③ ヒューズが切れていませんか？	①・②基本図 01 を参考に確認してください。 ③ タンク内の塩分濃度が濃すぎて規定以上の電流が 流れてしまっています。塩分濃度調整を参考に濃度を リセットしてからヒューズを交換して下さい(6A) ①②③で解消出来ない場合は断線等の故障が考えられま す。お手数ですがご購入店にご連絡頂きますようお願いいた します。
ノズルから水滴が落ちる	① 電源入れて暫くの間は、ノズル自 体が完全に温まっていない為に 水滴が落ちる事があります。 ② タンク内の水の量が多くて溢れ ている可能性があります。	① 電源を入れてから5～10分ほどでノズルが温まり、その 後は水滴は出なくなります。 ② タンク内の水の量を規定値以下に調整して下さい。 ①②で解消出来ない場合はノズル内のヒーターの故障が考え られます。お手数ですがご購入店にご連絡頂きますようお願い いたします。
電源を入れるとヒューズが切れる	タンク内の塩分濃度が濃すぎて規定以上の電流が流れてしまっています。	前ページの【タンク内の塩分濃度調整】を参考に塩分濃度をリセットしてからヒューズを交換して下さい(6A)
ダイヤルを保温の状態にしても蒸気が出る。	塩分濃度が濃くなり、蒸気発生率が高くなっています。	前ページの【タンク内の塩分濃度調整】を参考に塩分濃度をリセットして下さい。
ダイヤルを保温の状態から上げて、すぐに蒸気が出ない。	保温状態にしておく時。コントロールダイヤルを必要以上に左に回していませんか？	ちょうど蒸気が止まった状態が最適な保温状態となります。調整してご使用下さい。
	塩分濃度が薄くなり、蒸気発生率が低くなっています。	前ページの【タンク内の塩分濃度調整】を参考に塩分濃度をリセットして下さい。
<p>上記内容からお解かり頂けるように、より良い蒸気発生には塩分濃度に非常に左右されます。 【タンク内の塩分濃度調整】を良くお読み頂き、最適な状態でご使用頂きますようお願い致します。</p>		

御注意

- タンク内に入れる塩の量は非常に重要ですので“タンク内の塩分濃度調整”をよく読んで必ずお守り下さい。
- タンクに入れる水は、必ず精製水をお使い下さい。水道水を使うと水中の不純物等がヒーターに付着して蒸気の出が悪くなる事があります。(保障対象外となります)
- 安全弁の紛失にはご注意下さい。開いたままの状態ですと本体を傾けた状態で熱湯がこぼれて火傷をする恐れがあります。
- 一日の仕事が終わった後は、必ず電源を切って下さい。
- コテ先及びその周辺は非常に高温になっていますので、取扱には十分注意して下さい。
- パワースチームガンをシミ抜き以外の目的で使用しないで下さい。
- 本体のタンク内に設置されております電極棒は構造上消耗品となります。使用頻度にもよりますが、およそ2年に1度点検にお出し下さいますようお願い申し上げます。

ハンディースチームガン 取扱説明

この度は、コテ付きハンディースチームをお買い上げ頂き、誠に有難う御座います。
未永くご使用頂く為に、下記の使用法を良くお読みの上、正しくご使用下さいますようお願い致します。

【特 徴】

コテ付きハンディースチームは、ボイラー等の配管が一切不要で、100Vの電源だけで柔らかくて強力な蒸気を安定して連続的に出せます。

又、蒸気量の調節やコテとスチームの切替えも、ダイヤル操作で簡単に出来ますので、黄変抜きや残留色素抜き、又、その他熱を必要とする薬品などの処理に、変化を確認しながら使用できます。

【付属品及び各部名称】



—薬品の使用方法については29ページをご参照ください。—

【使用法】

- ① まず、電源を入れる前に、注水口キャップを取り外して、注水ボトルで注水口よりタンクへ水を注入して下さい。
※ 注水は必ず蒸留水等をお使い下さい。水道水を使うと水中の不純物等がヒーターに付着して蒸気の出が悪くなる事があります。
- ② 使い始めの時のみ、タンクの水をフィルターが吸い上げるのに少々時間がかかりますので、2～3分程してから電源を入れるようにして下さい。
2度目の使用時からは待つ必要はありません。
- ③ 電源を入れ始めた時のみヒーターが温まるまで、30～40秒ほどかかります。
使い続ける時は、その都度電源を切らずに、コントロールダイヤルをコテの位置にした状態にしておくと蒸気が止まってタンクの水が減りません。
- ④ コントロールダイヤルを回すことによって蒸気の調整と、コテと蒸気の切替えが出来ますので、用途に合わせ、調節してご使用下さい。コテ先は特殊テフロン加工がしてありますので、耐薬品についても優れています。

【固定台】

- 付属の固定台はハンディースチーム本体を常時置きやすい場所に、裏面の両面テープを剥がして貼り付けて下さい。ハンディースチームの裏側にマグネットが埋め込まれていますので、固定台の上に立てると倒れにくくなります。又他の鉄部の上に置いて頂いても結構です。
- コテ付きハンディースチーム本体にもフックが付いていますので、何処か掛けやすい所に掛けて頂いても結構です。

故障かな？ と思う前に・・・(ハンディースチームガン編)

症 状	原 因	対 処 法
コテ部が熱くならない。	電源は入ってますか？	本体からの電源コードがコンセントに接続されているか、またコードの中間 SW が ON になっているかご確認下さい。
	タンクに水が無い状態で長時間空焚きをされた事は無いですか？	安全のため、安全装置の温度ヒューズが切れたものと思われる。温度ヒューズの交換が必要となりますので販売代理店又は当社にご連絡下さい。
コテ部は熱いが蒸気が出ない。	タンク上部に空いている空気穴がホコリ等でふさがってませんか？	タンク上部後方の小さい空気穴がふさがっていると、タンク内が真空になり、フィルターが上手く水を吸い上げなくなります。エア等でホコリを吹き飛ばして掃除して下さい。
	タンクに水が無い状態で複数回空焚きをされた事は無いですか？	空焚きにより、フィルターが痛んでしまい、水を上手く吸い上げない状態になっているものと思われる。フィルター交換が必要となりますので販売代理店又は当社にご連絡下さい。
ノズルから水滴が落ちる	電源入れて暫くの間は、ノズル自体が完全に温まっていない為に水滴が落ちる事があります。	電源を入れてから5～10分ほどでノズルが完全に温まり、その後は水滴は出なくなります。 解消出来ない場合はヒーターの故障が考えられます。お手数ですがご購入店にご連絡頂きますようお願いいたします。

御 注 意

- タンク内に水が入っていない状態で、コントロールダイヤルを蒸気の位置にしての空炊きは絶対にしないで下さい。本体内のフィルターが焦げ付き、蒸気が出なくなる事があります。
- タンクに入れる水は、必ず蒸留水をお使い下さい。水道水を使うと水中の不純物等がヒーターに付着して蒸気の出が悪くなる事があります。
- 一日の仕事が終わった後、必ず電源を切って下さい。
- コテ先は非常に高温になっていますので、取扱には十分注意して下さい。

No.104-A・B・C(黄変抜き薬品)の使用法

《ハンディースチームガン・パワースチームガン共通》

付属の薬品は、主に黄変抜き用としてご使用下さい。

No.104-A・Bセット(黄変取り)は、すべての生地に使用できますが、ものによって色が抜ける場合もありますので必ず目立たない所でテストを行ってから使用して下さい。
(カシミヤ・アンゴラ・パシュミナ・モヘア等は深追いしない事!)

No.104 は(A液 9):(B剤 1)の割合で混合して使用します。(目安で結構です)

(A&Bの混合液)及び(精製水で薄めたC)は時間が経過すると徐々に効果が弱くなります。
より良い作業をしていただく為にも1日毎に作り直して頂く事をお勧めいたします。

No.104(黄変抜き)の通常の使用法

☆ No.104-A&B 混合液(酸性系薬品)

テストを行っても地色に異常がない場合は、シミの部分にNo.104混合液を筆等で塗布し、ハンディー又はパワースチームガンで蒸気を当てます。
スチームガンの蒸気は高温ですので、生地によっては溶ける恐れがありますので、生地にノズルを近づけ過ぎないように注意して下さい。(3~4cm位でOK)
ききめが弱い場合は、筆で塗布しながら蒸気を当てると速く漂白できます。

☆ No.104-C 中和

漂白作業が終了しましたら、精製水等で5~10倍に薄めたNo.104C(中和剤)又はサンサワー(精製水等で10倍位に薄めたもの)や、氷酢酸(2~3%)で中和してから、バキュームで吸引させながら水性のシルクビートガンで十分にすすいで下さい。
No.104混合液で漂白して若干黄ばみが残る場合でも、サンサワー(精製水等で10倍位に薄めたもの)や氷酢酸(2~3%)の酸性系で中和すれば黄ばみを除去できる場合があります。

※ ウール等の生地には色の発色をよくする為、蛍光剤を含んだものがあります。
この場合、酸化漂白すると逆に黄色く変色することがあります。
これを、戻すにはスポッターAか氷酢酸2%で中和すれば黄変と同時に変色も除去出来ます。

No.104—A & Bセット(黄変取り)の上手な使用法 (色素の若干弱いもの)

色素の弱いものは、漂白しようとする場所を最初に水で濡らしておいてからNo.104混合液を筆で塗布しスチームガンにて蒸気をあてます。
No.104原液で漂白するよりも、水で濡れている分薄まり、やわらかく漂白できます。(ボカシ抜き)

色を飛ばさないコツ

- ① 必ず、目立たない所でテストをする事。
- ② たくさんシミがある場合、小さい所からスタートする事。
- ③ 小さいシミがない場合、シミの一部でテストをする事。
- ④ 生地の温度が染の温度を超えない事。(蒸気を当てすぎない。時々、生地の温度をさます事。)
- ⑥ シミの部分より大きめに生地を濡らしてから漂白剤を塗布する。(ぼかし抜き)

【メモ】

A series of horizontal dashed lines for writing notes.

京都ならではのシミ抜き薬品・材料・小物等
いろいろ取り揃えております。
商品は当社ホームページからでも
ご購入頂けます。

URL—<http://www.sunkyoto.com>

また、その他お困りの事が御座いましたら
お気軽にお問い合わせ下さいませ。

〒600-8885 京都市下京区西七条南月読町 71-6

株式会社 サン京都

TEL (075) 315-2808 (代) FAX (075) 321-1895 (代)

《加工部専用》

TEL (075) 325-5678 FAX (075) 325-5677

URL—<http://www.sunkyoto.com> MAIL—info@sunkyoto.com